

台北市内で開催

JST、さくらサイエンスクラブ第2回台湾同窓会

科学技術振興機構(JST)が推進する青少年交流事業「さくらサイエンスプログラム(SSP)」を通じて来日した若者により構成される「Taiwan Sakura Science Club Alumni Association (TSSCA)」は11月4日、台北市で第2回台湾同窓会を開催した。昨年の第1回同窓会はオンラインでの開催であったため、これが初めての現地開催となった。天候にも恵まれ、台湾全土から来賓、同窓生含め約70名が会場へ訪れた。

同窓会は、TSSCA幹事である国立中興大学獣医学部の夏偉堯准教授の司会進行により行われた。国立台湾大学化学学部教授である彭之皓TSSCA幹事長による開会挨拶の後、日華議員懇談会会長の古屋圭司衆院議員より贈られたビデオメッセージが放映された。同窓生がそれぞれの分野で台湾と日本の架け橋となり、主導的な役割を果たすことを心から期待していると、日本と台湾のさらなる交流を進展させていきたいと抱負を述べた。

次に、来賓挨拶として、日本台湾交流協会の台湾事務所の岡島洋之副代表が登場し「多くの共通課題がある中、お互いの強みを活かすことで相互に発展していくことができるのではないかと、日本と台湾の青少年のさらなる交流に期待を寄せた。台湾側関係機関からは台湾教育部国民及学前教育署の彭富源署長より



彭富源署長による来賓あいさつは、これまでSSP高校生特別プログラムに科学オリンピックの参加者を含む優秀な高校生を選抜してきたが、今後、SSPに最大限のサポートを行いたいとの心強い言葉があった。



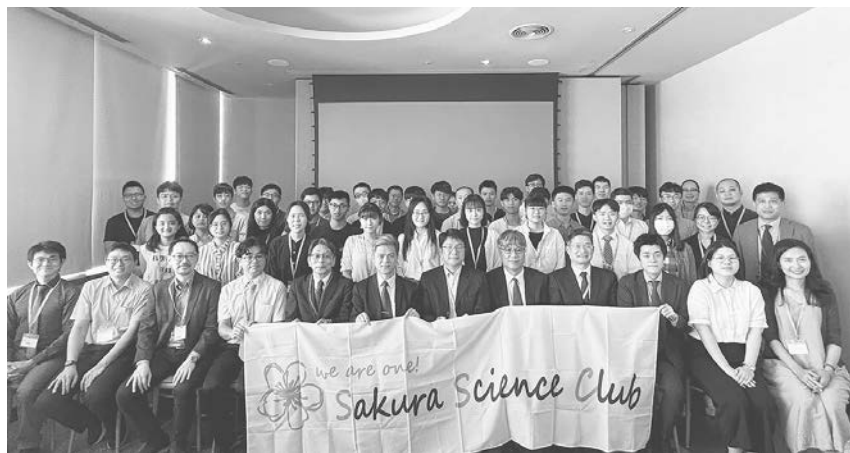
古屋衆院議員のビデオメッセージ

その後、日本台湾交流協会台北事務所の門田主任、謝職員より奨学金事業についての説明が行われ、申請の流れなど留学希望者向けの実践的な情報を含め、日本の大学院研究のさまざまな側面についての紹介があった。次に、シェアリングセッションとして3名の同窓生より発表が行われた。「日本での留学経験を経て、長年国際交流に携わってきた送り出し機関の責任者」「高校生交流を推進する教師」「交流計画に参加した大学院生」という三者三様の立場での経験談や感想に、来場した同窓生も興味深く耳を傾けていた。

交流セッションでは、来賓を含め参加者が自由に交流し、写真を取り合ったり、奨学金情報について質問を行ったり、終了時間を過ぎても同窓生のにぎやかな声が響いていた。

参加した同窓生のコメント

参加した同窓生からは、「同窓会メンバーと交流ができて嬉しい」「プログラムに参加して日本のことが好きになり、帰国後すぐに旅行に行った」「日本への留学を検討している。奨学金制度の紹介を聞いてよかった」「次回もこのような機会があればまた参加したい」などのコメントが寄せられた。



さくらサイエンスクラブ台湾同窓会参加者